【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成19年2月23日

【中間会計期間】 第72期中(自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)

【会社名】 前田金属工業株式会社

【英訳名】 Maeda Metal Industries, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 原 田 稔

【本店の所在の場所】 大阪市東成区深江北三丁目14番3号

【電話番号】 06(6976)5561

【事務連絡者氏名】 管理部長 髙 田 ー

【最寄りの連絡場所】 大阪市東成区深江北三丁目14番3号

【電話番号】 06(6976)5561

【事務連絡者氏名】 管理部長 髙 田 ー

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所

(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第70期中	第71期中	第72期中	第70期	第71期
会計期間		自 平成16年 6月1日 至 平成16年 11月30日	自 平成17年 6月1日 至 平成17年 11月30日	自 平成18年 6月1日 至 平成18年 11月30日	自 平成16年 6月1日 至 平成17年 5月31日	自 平成17年 6月1日 至 平成18年 5月31日
(1) 連結経営指標等						
売上高	(千円)	1,739,047	1,953,160	2,215,679	3,707,456	4,054,232
経常利益	(千円)	165,933	400,554	303,391	377,296	749,332
中間(当期)純利益	(千円)	164,754	215,011	158,164	314,229	461,525
純資産額	(千円)	1,606,016	1,852,279	1,808,246	1,600,357	1,831,016
総資産額	(千円)	4,928,068	5,398,822	5,606,198	5,049,240	5,337,973
1株当たり純資産額	(円)	151.50	183.03	183.80	154.16	185.51
1株当たり中間(当期) 純利益	(円)	15.48	21.05	16.04	27.43	45.64
潜在株式調整後 1株当たり中間(当期) 純利益	(円)	15.40	21.01		27.27	45.60
自己資本比率	(%)	32.6	34.3	32.3	31.7	34.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	202,606	282,209	11,574	523,491	570,477
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	216,831	150,074	267,247	142,213	41,560
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	40,276	398,367	292,645	360,312	527,599
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	(千円)	169,452	278,837	283,209	244,920	246,237
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(人)	132 (12)	138 (11)	140 (10)	137 (10)	142 (10)
(2) 提出会社の経営指標	等 ————					
売上高	(千円)	1,739,047	1,953,160	2,215,679	3,707,456	4,054,232
経常利益	(千円)	162,665	399,313	302,511	372,409	746,531
中間(当期)純利益	(千円)	162,194	214,956	157,985	311,534	460,330
資本金	(千円)	605,000	605,000	605,000	605,000	605,000
発行済株式総数	(千株)	11,713	11,713	11,713	11,713	11,713
純資産額	(千円)	1,617,815	1,863,890	1,818,539	1,612,023	1,841,487
総資産額	(千円)	4,939,197	5,409,959	5,616,097	5,061,465	5,348,685
1株当たり配当額	(円)	5.00	6.00	6.00	13.00	16.00
自己資本比率	(%)	32.8	34.5	32.4	31.8	34.4
【従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(人)	132 (12)	138 (11)	140 (10)	137 (10)	142 (10)

⁽注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

² 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

³ 提出会社の第70期の1株当たり配当額13円には創業80周年記念配当3円が含まれております。

2 【事業の内容】

当グループは、当社と子会社 1 社で構成されており、その主な事業内容は、作業工具及び機器の製造ならびに販売であります。

当社は、作業工具及び機器の製造を行い、国内及び海外の得意先に販売しております。子会社のロック㈱は、当社が製造販売する機器と同類の機器を販売しており、国内の得意先へは当社から製商品を仕入れて販売しております。

以上に述べた企業集団等の概略図は次のとおりであります。



3 【関係会社の状況】

当中間連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社における状況

事業の種類別セグメント情報を記載していないため、事業部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。 平成18年11月30日現在

事業部門の名称	従業員数(人)
作業工具部門	86(8)
機器部門	34(2)
全社(共通)	20()
合計	140(10)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に当中間連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。
 - 2 臨時従業員にはパートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員は除いております。

(2) 提出会社の状況

平成18年11月30日現在

	十成10年11月30日現任
従業員数(人)	140(10)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に当中間会計期間の平均人員を外数で記載しております。
 - 2 臨時従業員にはパートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員は除いております。

(3) 労働組合の状況

労使関係については、特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の高水準を受け、設備投資は引き続き増加し、雇用・所得環境の改善を受けた個人消費の持ち直しなどから緩やかな景気回復が持続し、息の長い成長となりました。

当業界におきましても、公共事業の抑制は依然として強く働いているものの、引き続き好調な国内設備投資の増加や海外市場の活況に支えられ、国内外ともに需要の拡大につながりました。

このような環境下におきまして、当社グループはすべての「ボルト締結作業」に最適な手段を提供する「ボルティング ソリューション カンパニー」への実現を社会的使命として、既存技術の応用による新分野の開拓、市場育成型製品群の投入に加え、締付力管理機器群における品揃えの拡充を積極的に展開してまいりました。

その結果、当中間期の連結業績につきましては、売上高は22億1千5百万円(前年同期比13.4%増)となりました。

損益面につきましては、売上高の増加を主因に、営業利益は2億6千7百万円(前年同期比35.1%増)、経常利益は3億3百万円(前年同期比24.3%減)、中間純利益は1億5千8百万円(前年同期比26.4%減)となりました。

部門別に見ますと、次のとおりであります。

作業工具類におきましては、工作機械や設備投資関連向けを中心に販売が好調に推移し、また、「締付力管理」分野における関心の高まりが好採算品目(締付力管理・測定商品群)の販売を押し上げたことにより、13億7千9百万円(前年同期比6.8%増)となりました。

機器類の国内市場におきましては、引き続き都市圏での活発な民間需要に支えられ、国内民間需要の著しい超高力ボルト用レンチの販売が好調に推移し、さらに、特定用途向けレンチの販売も順調に推移してまいりました。海外市場におきましても、依然として好調な米国向け販売に加え、東アジア向け販売の回復が本格化したことにより、大幅な伸長が見られました結果、8億3千6百万円(前年同期比26.4%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、2億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ3千6百万円(15.0%)増となりました。当中間連結会計期間におけるキャッシュ・フローの状況のそれぞれの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動においては、税金等調整前中間純利益2億8千5百万円、仕入債務の増加4千1百万円、および法人税等の支払3億1千6百万円等により、資金はプラス1千1百万円(前中間連結会計期間はプラス2億8千2百万円)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動においては、投資有価証券の売却による収入で4億1千9百万円を得ましたが、投資有価証券の取得に6億1千3百万円、有形・無形固定資産の取得に7千4百万円を支出したこと等により、資金はマイナス2億6千7百万円(前中間連結会計期間はプラス1億5千万円)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動においては、短期借入金の純増3億円、長期借入れにより2億3千万円の収入を得ましたが、長期借入金の返済1億2千2百万円、配当金の支払に9千8百万円等を支出したことにより、資金はプラス2億9千2百万円(前中間連結会計期間はマイナス3億9千8百万円)となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

事業部門の名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
作業工具部門	1,863,497	8.9
機器部門	940,561	23.4
合計	2,804,059	13.3

- (注) 1 金額は、販売価格(代理店価格)に基づいております。
 - 2 上記の生産実績には、仕入商品を含んでおります。
 - 3 金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

見込生産によっているため、受注高ならびに受注残高について記載すべき事項はありません。

(3) 販売実績

事業部門の名称	販売高(千円)	前年同期比(%)	
作業工具部門	1,379,185	6.8	
機器部門	836,494	26.4	
合計	2,215,679	13.4	

(注) 1 当中間連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前中間連絡	吉会計期間	当中間連結会計期間		
14于元 	販売高(千円)割合(%)		販売高(千円)割合(%)		
トラスコ中山(株)	406,480	20.8	488,870	22.1	
㈱山善	264,876	13.6	250,243	11.3	
前田機工(株)	219,761	11.3	220,958	10.0	

2 金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

研究開発活動は、既存製品ラインナップの充実、自動車整備・電設・ホームセンター、その他の新規市場向け製品の開発、および海外市場向け製品の開発に注力し、引き続き「ボルティング ソリューション カンパニー」の実現に向けた新製品の開発に取り組んでおります。

当中間連結会計期間の研究開発活動の実績としまして、作業工具系製品では六角ソケットを2シリーズ、トルクス ソケットを6シリーズ、T形ハンドルを1機種、新たに開発し追加投入いたしました。

また、BXシリーズ新型「ツールケース」採用の新型2段式「ツールセット」を5機種、新型キャビネットを2機種、新型チェスト2機種を新たに開発し追加投入いたしました。

機器系製品につきましては、近年建築分野での普及が目覚しい超高力ボルトに適応した専用レンチとして超高力溶 融亜鉛メッキボルト用一次締めレンチを開発し、トラック向けタイヤホイルナット締付け用電動レンチとして新たに 1機種を開発し追加投入いたしました。

また、製品デザインについての重要性を認識して、機器系製品でのグッドデザイン賞の受賞に向けて取り組んで参りました結果、超高力トルシア形ボルト用専用締付レンチ「シヤーレンチ GH240A」が2006年グッドデザイン賞に選定されました。

今後はプロ用工具におけるデザインの重要性を認識しながら、当社製品デザインの向上に努めてまいります。

下期につきましては、引き続き既存主力製品の追加・充実に努めるとともに、新規市場向け製品として、鉄道レール固定用新型ネジ釘の締付け専用レンチの開発、ボルト締結時の締付力を数値表示するトルク表示付パワーレンチの開発など、新規のボルト締結システム、新型締付レンチの開発に取り組んで参ります。

なお、平成18年11月30日現在の研究開発に従事する人員は9人です。

また、当中間連結会計期間の研究開発費は44,655千円であります。

第3 【設備の状況】

1 【主要な設備の状況】

当中間連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2 【設備の新設、除却等の計画】

前連結会計年度末に計画した重要な設備の新設、除却等はなく、当中間連結会計期間においても、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)	
普通株式	19,613,000	
計	19,613,000	

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (平成18年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成19年 2 月23日)	上場証券取引所名又 は登録証券業協会名	内容
普通株式	11,713,000	11,713,000	大阪証券取引所 市場第二部	
計	11,713,000	11,713,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成18年6月1日~ 平成18年11月30日		11,713		605,000		163,380

(4) 【大株主の状況】

平成18年11月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命証券管理部内	659	5.63
原 田 稔	大阪府茨木市	553	4.73
前田機工株式会社	大阪市西区新町 3 丁目13番25号	514	4.39
前 田 英 治	大阪府堺市東区	500	4.27
共栄火災海上保険株式会社	東京都港区新橋1丁目18番6号	420	3.59
株式会社マキタ	愛知県安城市住吉町 3 丁目11番 8 号	400	3.42
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2番1号	380	3.24
株式会社近畿大阪銀行	大阪市中央区城見1丁目4番27号	380	3.24
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り1丁目2番26号	380	3.24
屋敷高夫	兵庫県西宮市	335	2.86
計		4,522	38.61

⁽注) 1 当社は自己株式(1,874千株、16.01%)を保有しておりますが、表記しておりません。

² 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

(5) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成18年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,874,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,773,000	9,773	
単元未満株式	普通株式 66,000		
発行済株式総数	11,713,000		
総株主の議決権		9,773	

⁽注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式960株が含まれております。

【自己株式等】

平成18年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 前田金属工業株式会社	大阪市東成区深江北 三丁目14番 3 号	1,874,000	(1117)	1,874,000	16.01
計		1,874,000		1,874,000	16.01

2 【株価の推移】

【当該中間会計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成18年6月	平成18年7月	平成18年8月	平成18年9月	平成18年10月	平成18年11月
最高(円)	514	506	521	525	507	505
最低(円)	420	470	484	490	478	470

⁽注) 最高・最低株価は大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当半期報告書の提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

- 1 中間連結財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について
 - (1) 当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成11年大蔵省令第 24号。以下「中間連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前中間連結会計期間(平成17年6月1日から平成17年11月30日まで)は、改正前の中間連結財務諸表規則に基づき、当中間連結会計期間(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)は、改正後の中間連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号。 以下「中間財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前中間会計期間(平成17年6月1日から平成17年11月30日まで)は、改正前の中間財務諸表等規則に基づき、当中間会計期間(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)は、改正後の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、証券取引法第193条の2の規定に基づき、前中間連結会計期間(平成17年6月1日から平成17年11月30日まで)及び当中間連結会計期間(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)の中間連結財務諸表並びに前中間会計期間(平成17年6月1日から平成17年11月30日まで)及び当中間会計期間(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)の中間財務諸表について、監査法人トーマツにより中間監査を受けております。

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

【中間連結貸借対照表】

			連結会計期間		当中間連結会計期間末 (平成18年11月30日)			前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成18年5月31日)		
区分	注記番号	金額(17年11月30日) 千円)	構成比	金額(構成比	金額(構成比
(資産の部)	番号		,	(%)		1137	(%)		,	(%)
,										
流動資産										
1 現金及び預金			278,837			283,209			246,237	
2 受取手形及び売掛金			1,278,873			1,209,966			1,197,084	
3 たな卸資産			1,486,607			1,480,952			1,483,370	
4 繰延税金資産			719			11,554			65,859	
5 その他			104,312			130,222			7,323	
6 貸倒引当金			5,570			5,238			5,221	
流動資産合計			3,143,780	58.2		3,110,666	55.5		2,994,654	56.1
固定資産										
1 有形固定資産	(注1, 2)									
(1) 建物及び構築物		178,922			173,505			175,783		
(2) 機械装置及び 運搬具		103,427			120,206			126,828		
(3) 土地		308,186			308,186			308,186		
(4) その他		92,775	683,312		101,304	703,203		93,785	704,584	
2 無形固定資産			8,014			12,094			14,310	
3 投資その他の資産										
(1) 投資有価証券	(注2)	1,528,271			1,744,261			1,589,278		
(2) 繰延税金資産		359								
(3) その他		37,712			38,225			37,775		
(4) 貸倒引当金		2,628	1,563,715		2,252	1,780,234		2,628	1,624,425	
固定資産合計			2,255,042	41.8		2,495,531	44.5		2,343,316	43.9
資産合計			5,398,822	100.0		5,606,198	100.0		5,337,973	100.0

				連結会計期間			連結会計期間		要約週	結会計年度の 連結貸借対照表	<u> </u>
		12.47	(平成	17年11月30日)		(平成	18年11月30日		(平成	18年 5 月31日)
	区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
	(負債の部)										
3	計動負債										
1	支払手形及び買掛金			836,722			808,281			766,994	
2	短期借入金			1,191,910			1,562,740			1,202,026	
3	未払金			225,660			178,448			74,610	
4	未払費用			82,054			97,111			41,315	
5	未払法人税等			177,549			77,280			316,375	
6	賞与引当金			4,731			5,832			76,405	
7	役員賞与引当金						15,000			27,000	
8	その他			106,978			108,411			65,623	
	流動負債合計			2,625,606	48.6		2,853,106	50.9		2,570,350	48.2
臣	記定負債										
1	長期借入金			209,050			318,076			271,308	
2	退職給付引当金			496,055			451,586			463,449	
3	役員退職給与引当金			41,008			48,258			44,458	
4	繰延税金負債			172,523			124,623			155,090	
5	その他			2,300			2,300			2,300	
	固定負債合計			920,937	17.1		944,844	16.8		936,606	17.5
	負債合計			3,546,543	65.7		3,797,951	67.7		3,506,957	65.7
	(資本の部)										
資	[本金			605,000	11.2						
資	[本剰余金			163,380	3.0						
禾	川益剰余金			1,173,634	21.8						
そ 部	その他有価証券 F価差額金			238,162	4.4						
É	1己株式			327,898	6.1						
	資本合計			1,852,279	34.3						
	負債及び資本合計			5,398,822	100.0						

		前中間連結会計期間末 (平成17年11月30日)			当中間連結会計期間末 (平成18年11月30日)			前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成18年5月31日)		
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(純資産の部)										
株主資本										
1 資本金						605,000	10.8		605,000	11.3
2 資本剰余金						163,380	2.9		163,380	3.1
3 利益剰余金						1,418,888	25.3		1,359,426	25.5
4 自己株式						485,428	8.6		469,319	8.8
株主資本合計						1,701,840	30.4		1,658,487	31.1
評価・換算差額等										
その他有価証券 評価差額金						106,406	1.9		172,528	3.2
評価・換算差額等 合計						106,406	1.9		172,528	3.2
純資産合計						1,808,246	32.3		1,831,016	34.3
負債及び純資産合計						5,606,198	100.0		5,337,973	100.0

【中間連結損益計算書】

		(自 平)]連結会計期間 成17年 6 月 1 成17年11月30	∃	(自 平)]連結会計期間 成18年 6 月 1 成18年11月30	∃	要約選	結会計年度の 連結損益計算書 成17年 6 月 1 成18年 5 月31	計 日 日)
区分	注記 番号	金額(金額(千円)		金額(千円)		百分比 (%)	金額(千円)		百分比 (%)
売上高			1,953,160	100.0		2,215,679	100.0		4,054,232	100.0
売上原価	(注2)		1,180,030	60.4		1,318,423	59.5		2,436,647	60.1
売上総利益			773,130	39.6		897,255	40.5		1,617,585	39.9
販売費及び一般管理費	(注1, 2)		575,133	29.5		629,755	28.4		1,192,014	29.4
営業利益			197,997	10.1		267,499	12.1		425,570	10.5
営業外収益										
1 受取利息		746			1,235			1,588		
2 受取配当金		9,246			11,481			17,530		
3 有価証券売却益		195,956			31,001			312,166		
4 その他		3,309	209,259	10.7	2,594	46,314	2.1	6,871	338,156	8.3
営業外費用										
1 支払利息		6,225			7,087			11,448		
2 その他		476	6,702	0.3	3,335	10,422	0.5	2,945	14,394	0.3
経常利益			400,554	20.5		303,391	13.7		749,332	18.5
特別損失										
投資有価証券評価損		11,257	11,257	0.6	17,400	17,400	0.8	15,753	15,753	0.4
税金等調整前中間 (当期)純利益			389,297	19.9		285,991	12.9		733,579	18.1
法人税、住民税 及び事業税		173,135			73,431			335,523		
法人税等調整額		1,150	174,285	8.9	54,396	127,827	5.8	63,468	272,054	6.7
中間(当期)純利益			215,011	11.0		158,164	7.1		461,525	11.4

【中間連結剰余金計算書及び中間連結株主資本等変動計算書】 中間連結剰余金計算書

		前中間連約 (自 平成17 至 平成17	吉会計期間 年 6 月 1 日 年11月30日)
区分	注記 番号	金額(千円)
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高			163,380
資本剰余金中間期末残高			163,380
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高			1,068,020
利益剰余金増加高			
中間純利益		215,011	215,011
利益剰余金減少高			
1 配当金		81,749	
2 役員賞与		25,000	
3 自己株式処分差損		2,648	109,397
利益剰余金中間期末残高			1,173,634

中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)

			株主資本			評価・換算		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	純貝佐口司
平成18年 5 月31日残高 (千円)	605,000	163,380	1,359,426	469,319	1,658,487	172,528	172,528	1,831,016
中間連結会計期間中の 変動額								
剰余金の配当(注)			98,701		98,701			98,701
中間純利益			158,164		158,164			158,164
自己株式の取得				16,109	16,109			16,109
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の 変動額(純額)						66,122	66,122	66,122
中間連結会計期間中の 変動額合計(千円)			59,462	16,109	43,352	66,122	66,122	22,769
平成18年11月30日残高 (千円)	605,000	163,380	1,418,888	485,428	1,701,840	106,406	106,406	1,808,246

⁽注) 平成18年8月の定時株主総会における利益処分項目であります。

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)

			株主資本			評価・換算	拿差額等	体次主人社
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	純資産合計
平成17年 5 月31日残高 (千円)	605,000	163,380	1,068,020	277,899	1,558,501	41,855	41,855	1,600,357
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			142,470		142,470			142,470
役員賞与			25,000		25,000			25,000
当期純利益			461,525		461,525			461,525
自己株式の取得・処分 (純額)			2,648	191,420	194,068			194,068
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の 変動額(純額)						130,672	130,672	130,672
連結会計年度中の変動額 合計(千円)			291,405	191,420	99,985	130,672	130,672	230,658
平成18年 5 月31日残高 (千円)	605,000	163,380	1,359,426	469,319	1,658,487	172,528	172,528	1,831,016

【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

			前	中間連結会計期間	当	 中間連結会計期間		前連結会計年度の キャッシュ・フロー
				平成17年6月1日		平成18年6月1日		計算書 平成17年6月1日
			(自 至	平成17年6月1日 平成17年11月30日)	自至	平成18年17月30日)	(自 至	平成17年6月1日平成18年5月31日)
	区分	注記 番号		金額(千円)		金額(千円)		金額(千円)
	営業活動による Fャッシュ・フロー							
1	税金等調整前中間(当期) 純利益			389,297		285,991		733,579
2	減価償却費			30,828		37,900		68,567
3	投資有価証券評価損			11,257		17,400		15,753
4	有価証券売却益			195,956		31,001		312,166
5	有形固定資産除却損			74		3,095		2,550
6	受取利息及び受取配当金			9,993		12,717		19,119
7	支払利息			6,225		7,087		11,448
8	貸倒引当金の減少額			649		358		997
9	退職給付引当金の 増加(減少)額			11,113		11,862		21,492
10				3,450		3,800		6,900
11	賞与引当金の 増加(減少)額			58,395		70,572		13,278
12	未払人件費の増加			51,027		65,634		11
13						12,000		27,000
14	売上債権の減少(増加) 額			66,387		12,881		148,176
15	たな卸資産の 減少(増加)額			72,663		2,418		69,426
16	仕入債務の増加額			127,963		41,287		58,235
17	未払消費税等の減少額			17,038		11,240		5,797
18	役員賞与の支払額			25,000				25,000
19	その他			10,404		20,448		16,058
	小計			328,333		322,427		647,536
20	利息及び配当金の受取額			9,986		12,670		19,100
21	利息の支払額			5,715		7,271		10,688
22	法人税等の支払額			50,393		316,251		85,471
	営業活動による キャッシュ・フロー			282,209		11,574		570,477

				前連結会計年度の
		前中間連結会計期間	当中間連結会計期間 	連結キャッシュ・フロー 計算書
		(自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)	(自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)	(自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)
区分	注記 番号	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
投資活動による キャッシュ・フロー				
1 有形・無形固定資産の 取得による支出		23,063	74,309	45,732
2 投資有価証券の 取得による支出		1,268,205	613,075	2,189,569
3 投資有価証券の 売却による収入		1,432,586	419,060	2,104,612
4 差金決済による収支 (純額)		7,484	1,903	88,294
5 その他		1,271	826	834
投資活動による キャッシュ・フロー		150,074	267,247	41,560
財務活動による キャッシュ・フロー				
1 短期借入金の増減(純額)		200,000	300,000	200,000
2 長期借入れによる収入		50,000	230,000	270,000
3 長期借入金の 返済による支出		114,064	122,518	261,690
4 配当金の支払額		81,655	98,727	141,841
5 自己株式の取得及び 売却による収支(純額)		52,648	16,109	194,068
財務活動による キャッシュ・フロー		398,367	292,645	527,599
現金及び現金同等物の 増加額		33,916	36,972	1,316
現金及び現金同等物の 期首残高		244,920	246,237	244,920
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高		278,837	283,209	246,237
	L			l

前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	前連結会計年度
(自 平成17年6月1日	(自 平成18年6月1日	(自 平成17年6月1日
至 平成17年11月30日)	至 平成18年11月30日)	至 平成18年5月31日)
1 連結の範囲に関する事項	1 連結の範囲に関する事項	1 連結の範囲に関する事項
連結子会社数 1社	同左	同左
連結子会社名 ロック㈱		
2 持分法の適用に関する事項	2 持分法の適用に関する事項	2 持分法の適用に関する事項
持分法適用会社はありません。	持分法適用会社はありません。	持分法適用会社はありません。
	なお、関連会社は1社あります	
	が、中間純利益(持分に見合う	
	額)及び利益剰余金(持分に見合	
	う額)等からみて、持分法の対	
	象から除いても中間連結財務諸	
	表に及ぼす影響が軽微であり、	
	かつ全体としても重要性がない	
	ため、持分法の適用範囲から除	
	外しております。	
3 連結子会社の中間決算日等に関	3 連結子会社の中間決算日等に関	3 連結子会社の事業年度等に関す
する事項	する事項	る事項
連結子会社の中間決算日は中間	同左	連結子会社の事業年度の末日
連結決算日と一致しておりま		は、連結決算日と一致しており
す。	A + 1 to TE + 1 TO 1 TO 1 TO 1	ます。
4 会計処理基準に関する事項	4 会計処理基準に関する事項	4 会計処理基準に関する事項
(1) 重要な資産の評価基準及び評	(1) 重要な資産の評価基準及び評	(1) 重要な資産の評価基準及び評
価方法 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	価方法 * 数据第字	価方法 * 数据第字
たな卸資産	たな卸資産	たな卸資産
商品…移動平均法による低	同左	同左
価基準 製品…総平均法による低価		
表面…総千均太によるIII.IIII 基準		
法による		
原価基準		
貯蔵品…先入先出法による		
原価基準		
有価証券	有価証券	有価証券
日加血力	持分法非適用の関連会社株	日岡証力
	式	
	移動平均法による原価基	
	準	
2 - N + /T-1-24	'	
- その他有価証券	その他有価証券	その他有価証券
その他有値証券 時価のあるもの	その他有価証券 時価のあるもの	その他有価証券 時価のあるもの
時価のあるもの	時価のあるもの	時価のあるもの
時価のあるもの …中間決算日の市場価格	時価のあるもの …中間決算日の市場価格	時価のあるもの …決算日の市場価格等に
時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評	時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評	時価のあるもの …決算日の市場価格等に 基づく時価法(評価差
時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部資本直入	時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部純資産直	時価のあるもの …決算日の市場価格等に 基づく時価法 (評価差 額は全部純資産直入
時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部資本直入 法により処理し、売却	時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部純資産直 入法により処理し、売	時価のあるもの …決算日の市場価格等に 基づく時価法(評価差 額は全部純資産直入 法により処理し、売
時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部資本直入 法により処理し、売却 原価は移動平均法によ	時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部純資産直 入法により処理し、売 却原価は移動平均法に	時価のあるもの …決算日の市場価格等に 基づく時価法(評価差 額は全部純資産直入 法により処理し、売 却原価は移動平均法
時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部資本直入 法により処理し、売却 原価は移動平均法によ り 算 定 し て お り ま	時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しておりま	時価のあるもの …決算日の市場価格等に 基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しており
時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部資本直入 法により処理し、売却 原価は移動平均法によ り 算 定 し て お り ま す。)	時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)	時価のあるもの …決算日の市場価格等に 基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)
時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評 価差額は全部資本直入 法により処理し、売却 原価は移動平均法によ り 算 定 し て お り ま す。) 時価のないもの	時価のあるもの …中間決算日の市場価格 等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。) 時価のないもの	時価のあるもの決算日の市場価格等に 基づく時価法(評価差 額は全部純資産直入 法により処理し、売 却原価は移動平均法 により算定しており ます。) 時価のないもの

前中間連結会計期間 (自 平成17年 6 月 1 日 至 平成17年11月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)	前連結会計年度 (自 平成17年 6 月 1 日 至 平成18年 5 月31日)
(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産 定率法によっております。 ただし、平成10年4月1日 以降に取得した建物(建物 附属設備を除く)について は、定額法によっております。 なお、主な耐用年数は以下 のとおりであります。 建物 7年~31年	(2) 重要な減価償却資産の減価償 却の方法 有形固定資産 同左	(2) 重要な減価償却資産の減価償 却の方法 有形固定資産 同左
機械装置 12年 工具器具備品 2年~10年 無形固定資産 定額法によっております。 なお、ソフトウェアについ ては社内における利用可能 期間(5年)に基づく定額法	無形固定資産 同左	無形固定資産 同左
によっております。 (3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に 備えるため、一般債権につ いては貸倒実績率により、 貸倒懸念債権等の特定の債 権については個別に回収可 能性を検討し、回収不能見	(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 同左	(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 同左
込額を計上しております。 賞与引当金 従業員の賞与支給に備える ため、支給見込額のうち当 中間連結会計期間の負担に 属する額を計上しておりま す。	賞与引当金 同左	賞与引当金 従業員の賞与支給に備える ため、支給見込額のうち当 連結会計年度の負担に属す る額を計上しております。
分 。 役員賞与引当金	役員賞与引当金 定時株主総会での承認を条件に支給される役員賞与に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。 (追加情報) 当中間連結会計期間は、役員賞与の支給が確実と見込まれる状況にあるため、役員賞与引当金を計上しております。	役員賞与引当金 定時株主総会での承認を条 件に支給される役員賞与に 備えるため、支給見込額に 基づき計上しております。
退職給付引当金 従業員の退職給付に備える ため、当中間連結会計期間 末における退職給付債務及 び年金資産に基づき計上し ております。 役員退職給与引当金 役員退職慰労金の支出に備 えるため、内規に基づ 中間連結会計期間末要支給 額を計上しております。	退職給付引当金 同左 同左 役員退職給与引当金 同左	退職給付引当金 従業員の退職給付に備える ため、当連結会計年度末に おける退職給付債務及び年 金資産に基づき計上してお ります。 役員退職慰労金の支出に備 えるため、内規に基づ 結会計年度末要支給額を計 上しております。

	<u>, </u>	
前中間連結会計期間 (自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)	前連結会計年度 (自 平成17年 6 月 1 日 至 平成18年 5 月31日)
(4) 重要なリース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に 移転すると認められるもの以 外のファイナンス・リース取 引については、通常の賃貸借 取引に係る方法に準じた会計 処理によっております。	(4) 重要なリース取引の処理方法 同左	(4) 重要なリース取引の処理方法 同左
(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 為替予約については振当処 理の要件を満たしている場 合は振当処理を採用しております。	(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左	(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左
ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 高替予約 ヘッジ対象 外貨建買掛債務	ヘッジ手段とヘッジ対象 同左	ヘッジ手段とヘッジ対象 同左
ヘッジ方針 外貨建債務にかかる将来の 為替変動リスクをヘッジす る目的で為替予約取引を行っております。	ヘッジ方針 同左	ヘッジ方針 同左
ヘッジ有効性の評価の方法 為替予約については履行が 確実な輸入取引に係るもの であり、確実に実行される ため有効性の判定を省略し ております。	ヘッジ有効性の評価の方法 同左	ヘッジ有効性の評価の方法 同左
(6) その他中間連結財務諸表作成のための重要な事項消費税等の会計処理税抜方式を採用しております。なお、仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺せず、それでれ、流動資産のその他、流動負債のその他に含めて表示しております。	(6) その他中間連結財務諸表作成 のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左	(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 税抜方式を採用しております。
5 中間連結キャッシュ・フロー計 算書における資金の範囲 中間連結キャッシュ・フロー計 算書における資金の範囲(現まとので現金同等物)は、手許鬼 及び現金同等物)は、手許金 で容易に換金可能であり、が容易に換金可能であり、か何を別でありなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなります。	5 中間連結キャッシュ・フロー計 算書における資金の範囲 同左	5 連結キャッシュ・フロー計算書 における資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書 における資金(現金及び現金同 等物)の範囲は、手許現金、随 時引き出し可能な預金及び容易 に換金可能であり、かつ価格の 変動について僅少なリスクしか 負わない取得日から3ヶ月以内 に償還期限の到来する短期投資 からなっております。

(固定資産の減損に係る会計基準) 当中間連結会計期間から「固定資産の 遊河減担に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成4年8月9日))及び「固定資産の 減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 企業会計審議会 企業会計審集等 (予して) 計基準適用指針第6号 平成15年10 月31日 企業会計基準の適用指針」。 (企業会計基準委員会 平成15年10 月31日 企業会計基準の設定に関する会計基準の適用指針」。 (企業会計基準委員会 平成15年10 月31日 企業会計基準の過度に関する会計基準の 1月31日 企業会計基準の通用指針第6号 中成15年10 月31日 企業会計基準の以同適用指針を適 用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 (役員質与に関する会計基準) 当連結会計年度から「役員質与に関する会計基準) (企業会計基準多量会 平成17年10月20日 企業会計基準等 4号)が適用されることとなったため、同会計基準等 (企業会計基準を適用しております。 この結果 従来の方法と比等調整 第4号)が適用されることとなったため、同会計基準を適用しております。 この結果 従来の方法と比等調整 前当期純利益がそれぞれど7000千円 減少しております。 (質情対照表の純資産の部の表示に関する会計基準の の純資産の部の表示に関する会計基準の適用指針 (企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準の適用指針 (企業会計基準の適用指針) (企業会計基準の適用指針 (企業会計基準の適用指針 を適用しております。 に関する会計基準の適用指針 (企業会計基準の適用指針 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の
であります。

注記事項

(中間連結貸借対照表関係)

前中間連結会計期間末 (平成17年11月30日)				当中間連結会計 (平成18年11月3		前連結会計年度 (平成18年 5 月31日)		
(注1)	有形固定資産の減	価償却累計額	(注1)	有形固定資産の減	価償却累計額	(注1)	有形固定資産の洞	述価償却累計額
	2	2,494,656千円		2	2,485,819千円			2,501,537千円
(注2)	担保資産及び担保	付債務	(注2)	担保資産及び担保	付債務	(注2)	担保資産及び担保	?付債務
	担保に供してい	る資産は次の		担保に供してい	る資産は次の		担保に供してい	1る資産は次の
	とおりでありま	す。		とおりでありま	す。		とおりでありま	きす。
	建物	121,713千円		建物	113,081千円		建物	117,174千円
	土地	248,689		土地	248,689		土地	248,689
	投資有価証券	665,842		投資有価証券	451,465		投資有価証券	675,213
	計 1	,036,244		計	813,236		計	1,041,076
	担保付債務は次	のとおりであ		担保付債務は次	のとおりであ		担保付債務は次	マのとおりであ
	ります。			ります。			ります。	
	長期借入金	362,372千円		長期借入金	580,300千円		長期借入金	406,632千円
	(一年以内に) 含む)	返済予定分を		(一年以内に 含む)	返済予定分を		(一年以内に 含む)	返済予定分を

(中間連結損益計算書関係)

前中間連結会計期間 (自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)			当中間連結会計 (自 平成18年6月 至 平成18年11月	1日 130日)		前連結会計年度 (自 平成17年 6 月 1 日 至 平成18年 5 月31日)			
(注1)	販売費及び一般管理		(注1)				,		
	費目及び金額は次の	のとおりであ		費目及び金額は次の	のとおりであ		費目及び金額は次の	のとおりであ	
	ります。			ります。			ります。		
	(1) 販売費			(1) 販売費			(1) 販売費		
	給料手当賞与	168,528千円		給料手当賞与	186,632千円		給料手当賞与	354,747千円	
	その他の人件費	·		その他の人件費	42,174		その他の人件費	80,008	
	販売奨励金	2,578		販売奨励金	3,169		販売奨励金	6,099	
	販売促進費	9,666		販売促進費	22,327		販売促進費	17,160	
	包装荷造・ 運送費	54,874		包装荷造・ 運送費	67,742		包装荷造・ 運送費	121,255	
	広告宣伝・ 交際費	48,756		広告宣伝・ 交際費	27,551		広告宣伝・ 交際費	70,334	
	通信・交通費	38,891		通信・交通費	50,888		通信・交通費	78,640	
	減価償却費	8,533		減価償却費	13,928		減価償却費	21,428	
	その他販売費	54,009		その他販売費	53,477		その他販売費	109,602	
	計	422,026		計	467,891		計	859,277	
	(2) 一般管理費			(2) 一般管理費			(2) 一般管理費		
	役員報酬	36,300千円		役員報酬	38,850千円		役員報酬	72,600千円	
	給料手当賞与 役員退職給与	32,947		役員賞与引当金 繰入額	15,000		役員賞与引当金 繰入額	27,000	
	投資壓職組与 引当金繰入額	3,450		給料手当賞与	28,255		給料手当賞与	63,245	
	その他の人件費 租税公課	10,150 6,894		役員退職給与 引当金繰入額	3,800		役員退職給与 引当金繰入額	6,900	
	減価償却費	1,326		その他の人件費	9,218		その他の人件費	22,426	
	研究開発費	18,556		租税公課	6,158		租税公課	14,603	
	研九用光貝 その他	·		減価償却費	1,011		減価償却費	2,565	
	一般管理費	43,482		研究開発費	23,054		研究開発費	36,216	
	計	153,106		その他 一般管理費	36,515		その他 一般管理費	87,180	
				計	161,863		計	332,737	
(注2)		造費用に含ま	(注2)		造費用に含ま	(注2)		造費用に含ま	
	れる研究開発費			れる研究開発費			れる研究開発費		
		39,397千円			44,655千円			78,188千円	

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

当中間連結会計期間(自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計 年度末株式数	当中間連結会計 期間増加株式数	当中間連結会計 期間減少株式数	当中間連結会計 期間末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	11,713,000株			11,713,000株	
合計	11,713,000株			11,713,000株	
自己株式					
普通株式	1,842,830株	32,130株		1,874,960株	(注)
合計	1,842,830株	32,130株		1,874,960株	

(注) 自己株式の変動事由の概要

増加数の内訳

会社法第165条第2項の規定に基づく取得 単元未満株式の買取 31,000株

1,130株

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項 該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金の支払

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成18年 8 月30日 定時株主総会	普通株式	98,701	10.00	平成18年 5 月31日	平成18年8月31日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が中間連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	D種類 配当の 配当金の総 原資 額(千円)		1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成19年 1 月12日 取締役会	普通株式	利益剰余金	59,028	6.00	平成18年11月30日	平成19年 2 月14日

前連結会計年度(自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計 年度末株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当連結会計 年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	11,713,000株			11,713,000株	
合計	11,713,000株			11,713,000株	
自己株式					
普通株式	1,494,342株	401,488株	53,000株	1,842,830株	(注)
合計	1,494,342株	401,488株	53,000株	1,842,830株	

(注) 自己株式の変動事由の概要

1 増加数の内訳

旧商法第211条 J 3 第 1 項第 2 号の規定に基づく取得 401,000株 単元未満株式の買取 488株

2 減少数の内訳

ストックオプションの行使による売却

53,000株

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当なし

3 配当に関する事項

(1) 配当金の支払

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	
平成17年 8 月30日 定時株主総会	普通株式	81,749	8.00	平成17年5月31日	平成17年8月31日	
平成18年 1 月20日 取締役会	普通株式	60,721	6.00	平成17年11月30日	平成18年 2 月16日	

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の 原資	配当金の総 額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成18年 8 月30日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	98,701	10.00	平成18年 5 月31日	平成18年8月31日

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前中間連結会計期間 (自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)	前連結会計年度 (自 平成17年 6 月 1 日 至 平成18年 5 月31日)
現金及び現金同等物の中間期末残高	現金及び現金同等物の中間期末残高	現金及び現金同等物の期末残高と連
と中間連結貸借対照表に掲記されて	と中間連結貸借対照表に掲記されて	結貸借対照表に掲記されている科目
いる科目の金額との関係	いる科目の金額との関係	の金額との関係
現金及び預金勘定 278,837千円	現金及び預金勘定 283,209千円	現金及び預金勘定 246,237千円
現金及び現金同等物 278,837千円	現金及び現金同等物 283,209千円	現金及び現金同等物 246,237千円



	自 平成1	結会計期間 7年6月1 7年11月30	日		自 平成	結会計期 18年6月1 18年11月30	日	前連結会計年度 (自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)			
1 IJ	ース物件の	の所有権が	借主に移	1 IJ	1 リース物件の所有権が借主に移				ース物件の	の所有権が	借主に移
転す	ると認めら	られるもの	以外のフ	転す	ると認め	られるもの	以外のフ	転すると認められるもの以外のフ			
		ノース取引				リース取引		ァイナンス・リース取引			
		件の取得				件の取得	•			件の取得	
		7,00元(1) 印累計額相				7,00克内 切累計額相				7,30元(1) 切累計額相	
	、鸡喵慢 ² 間期末残高				間期末残る				- 浅温度2 未残高相3		
		河伯二 照 減価償却	中間期末	-1-1		河伯二 照 減価償却	中間期末	光门ノ		ョロ 減価償却	
	取得価額 相当額	累計額	残高		取得価額 相当額	累計額	残高		取得価額 相当額	累計額	期末残高 相当額
	(千円)	相当額 (千円)	相当額 (千円)		(千円)	相当額 (千円)	相当額 (千円)		(千円)	相当額 (千円)	(千円)
機械装置		(113)	(113)	機械装置		(113)	(11)	機械装置		(11)	
及び	121,184	86,642	34,541	及び及び	101,730	83,435	18,294	機械表量 及び	116,455	90,773	25,682
運搬具			,	運搬具				運搬具			
その他	38,536	16,056	22,479	その他	38,536	22,479	16,056	その他	38,536	19,268	19,268
合計	159,721	102,699	57,021	合計	140,267	105,915	34,351	合計	154,992	110,041	44,950
	未経過リ- 当額	- ス料中間	期末残高		未経過リ· 当額	ース料中間	期末残高	ラ 額	未経過リ-	- ス料期末	残高相当
	年内	23	3,437千円		手内	2:	2,434千円	1年内 22,162千月			
	年超		6,160		- F超		3,725	1年超 25,011			
II	- <u>/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /</u>		9,597	合計 36,160			合計 47,173				
		ス料、減価	•			ス料、減価	•	支払リース料、減価償却費相			
								当額及び支払利息相当額			
		丛利息相当		当額及び支払利息相当額							
	払リース料		5,536千円	支払リース料 11,484千円			支払リース料 26,574千円				
	価償却費材		2,544		減価償却費相当額 10,598			減価償却費相当額 24,615			
	払利息相当		765	支払利息相当額 470				支払利息相当額 1,380			
		貴相当額の		減価償却費相当額の算定方法				減価償却費相当額の算定方法			
	リース期間	間を耐用年	数とし、	同左					F	司左	
残	存価額を零	零とする定	!額法によ								
っ	ております	f 。									
5	利息相当額	頃の算定方	法	利息相当額の算定方法				利息相当額の算定方法			
	リース料約	総額とリー	ス物件の	同左				同左			
		の差額を利									
		への配分方									
		法によって									
す。		741000	(0)) &								
		ィング・リ	<u> _</u> 구 BD 2 I	ე ↓	~ l =	ィング・リ	_ 7 B721	2 オ/	ペレーモ	ィング・リ	<u> _</u> フ BD 2 l
_			ヘポコ				ヘポコ				ヘポコ
	経過リース		0.002.T.III		未経過リース料				怪過リース		. FOET III
	年内		2,923千円	1 年内 1,613千円				手内 - +7		2,595千円	
	年超		2,892		年超		1,278		手超		,757
	計	5,815 合計 2,892				2,892	合	計	2	1,353	
										_,	
(減損損失について)					-		(减損損	失につい	-		
						分された洞			Ī	司左	
						項目等σ	記載は省				
				略して	おります。	ı					

(有価証券関係)

1 時価のある有価証券

その他有価証券

	前中間連結会計期間 (平成17年11月30日現在)				間連結会計期 18年11月30日		前連結会計年度 (平成18年 5 月31日現在)			
区分	取得原価 (千円)	中間連結 貸借対照表 計上額 (千円)	差額 (千円)	取得原価 (千円)	中間連結 貸借対照表 計上額 (千円)	差額 (千円)	取得原価 (千円)	連結 貸借対照表 計上額 (千円)	差額 (千円)	
株式	988,749	1,389,056	400,307	1,280,214	1,509,508	229,293	1,122,186	1,446,985	324,798	
債券	20,955	21,746	790	110,073	103,127	6,945	31,438	28,281	3,156	
その他	82,456	92,618	10,162	82,771	91,776	9,004	82,771	89,161	6,389	
計	1,092,161	1,503,422	411,260	1,473,059	1,704,412	231,352	1,236,396	1,564,428	328,032	

⁽注) 「取得原価」は減損処理後の金額で表示しております。

2 時価評価されていない主な有価証券

内容	前中間連結会計期間 (平成17年11月30日現在)	当中間連結会計期間 (平成18年11月30日現在)	前連結会計年度 (平成18年 5 月31日現在)		
内台	中間連結貸借対照表計上額 (千円)	中間連結貸借対照表計上額 (千円)	連結貸借対照表計上額 (千円)		
その他有価証券					
非上場株式	24,849	24,849	24,849		
子会社及び 関連会社株式					
関連会社株式		15,000			

(デリバティブ取引関係)

前中間連結会計期間、当中間連結会計期間及び前連結会計年度のいずれにおいても、ヘッジ会計を適用しているため、開示の対象から除いております。

(ストック・オプション等関係)

当中間連結会計期間及び前連結会計年度のいずれにおいても該当事項はありません。

前へ

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前中間連結会計期間、当中間連結会計期間及び前連結会計年度のいずれにおいても、当連結グループは、作業工具・機器の製造・販売のみを行なっている単一セグメントに該当いたしますので、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前中間連結会計期間、当中間連結会計期間及び前連結会計年度のいずれにおいても、本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前中間連結会計期間(自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)

	東アジア	区欠州	北中米	その他の地域	計
海外売上高(千円)	120,808	8,203	146,845	45,108	320,964
連結売上高(千円)					1,953,160
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	6.2	0.4	7.5	2.3	16.4

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理の近接度によっております。
 - 2 各区分に属する主な国又は地域
 - (1) 東アジア...韓国・台湾・中国
 - (2) 欧州.....イギリス・スウェーデン
 - (3) 北中米.....アメリカ・カナダ
 - (4) その他……タイ・シンガポール・インドネシア・フィリピン・中近東
 - 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当中間連結会計期間(自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)

	東アジア	区欠州	北中米	その他の地域	計
海外売上高(千円)	156,770	10,971	178,401	50,275	396,417
連結売上高(千円)					2,215,679
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	7.1	0.5	8.0	2.3	17.9

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理の近接度によっております。
 - 2 各区分に属する主な国又は地域
 - (1) 東アジア...韓国・中国・台湾
 - (2) 欧州.....イギリス・フランス
 - (3) 北中米……アメリカ・カナダ
 - (4) その他……タイ・シンガポール・インドネシア・フィリピン・マレーシア
 - 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

前連結会計年度(自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)

	東アジア	区欠州	北中米	その他の地域	計
海外売上高(千円)	282,358	21,478	304,156	95,256	703,248
連結売上高(千円)					4,054,232
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	7.0	0.5	7.5	2.3	17.3

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理の近接度によっております。
 - 2 各区分に属する主な国又は地域
 - (1) 東アジア...韓国・台湾・中国
 - (2) 欧州.....イギリス・フランス
 - (3) 北中米.....アメリカ・カナダ
 - (4) その他......タイ・シンガポール・インドネシア・フィリピン・中近東
 - 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(1株当たり情報)

前中間連結会計類 (自 平成17年6月 至 平成17年11月	1日	当中間連結会計期 (自 平成18年 6 月 至 平成18年11月	1日	前連結会計年度 (自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)		
1 株当たり純資産額	183.03円	1株当たり純資産額	183.80円	1株当たり純資産額	185.51円	
1株当たり中間純利益 金額	21.05円	1株当たり中間純利益 金額	16.04円	1株当たり当期純利益 金額	45.64円	
潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益	21.01円	潜在株式調整後1株当が 利益金額については、※ 存在していないため記載 ません。	替在株式が	潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	45.60円	

(注) 算定上の基礎

1株当たり中間(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額

	<u> </u>	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	TAT HX
	前中間連結会計期間 (自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)	前連結会計年度 (自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)
中間(当期)純利益(千円)	215,011	158,164	461,525
普通株主に帰属しない金額			
普通株式に係る 中間(当期)純利益(千円)	215,011	158,164	461,525
普通株式の 期中平均株式数(千株)	10,216	9,863	10,111
普通株式増加数			
新株予約権(千株)	18		9
希薄化効果を有しないため、 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益の算定に含め なかった潜在株式の概要			

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

【中間貸借対照表】

		前中間会計期間末 (平成17年11月30日)				当中間会計期間末 (平成18年11月30日)			前事業年度の 要約貸借対照表 (平成18年5月31日)	
区分	注記 番号	金額(構成比 (%)	金額(構成比 (%)	金額(構成比 (%)
(資産の部)										
流動資産										
1 現金及び預金			272,999			274,142			239,621	
2 受取手形			636,262			495,953			560,234	
3 売掛金			650,126			723,071			643,906	
4 たな卸資産			1,486,607			1,480,952			1,483,370	
5 その他			103,342			140,846			72,328	
6 貸倒引当金			5,430			5,170			5,080	
流動資産合計			3,143,908	58.1		3,109,795	55.4		2,994,381	56.0
固定資産										
1 有形固定資産	(注1, 2)									
(1) 建物		176,472			168,024			173,491		
(2) 機械及び装置		102,991			118,889			125,238		
(3) 土地		308,186			308,186			308,186		
(4) その他		97,030	684,680		108,871	703,972		98,651	705,568	
2 無形固定資産			8,014			12,094			14,310	
3 投資その他の資産										
(1) 投資有価証券	(注2)	1,538,271			1,754,261			1,599,278		
(2) その他		37,712			38,225			37,775		
(3) 貸倒引当金		2,628	1,573,355		2,252	1,790,234		2,628	1,634,425	
固定資産合計			2,266,051	41.9		2,506,301	44.6		2,354,303	44.0
資産合計			5,409,959	100.0		5,616,097	100.0		5,348,685	100.0

			間会計期間末 17年11月30日)			明会計期間末 18年11月30日)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成18年 5 月31日)		
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(負債の部)										
流動負債										
1 支払手形			660,625			587,847			596,404	
2 買掛金			176,096			220,434			170,589	
3 短期借入金			1,191,910			1,562,740			1,202,026	
4 未払費用			82,054			97,111			41,315	
5 未払法人税等			177,514			77,245			316,305	
6 賞与引当金			4,731			5,832			76,405	
7 役員賞与引当金						15,000			27,000	
8 設備関係支払手形			15,192			8,668			50,243	
9 その他			316,433			277,510			89,887	
流動負債合計			2,624,558	48.5		2,852,390	50.8		2,570,178	48.1
固定負債										
1 長期借入金			209,050			318,076			271,308	
2 退職給付引当金			496,055			451,586			463,449	
3 役員退職給与引当金			41,008			48,258			44,458	
4 預り保証金			2,300			2,300			2,300	
5 繰延税金負債			173,097			124,946			155,503	
固定負債合計			921,511	17.0		945,167	16.8		937,019	17.5
負債合計			3,546,069	65.5		3,797,557	67.6		3,507,198	65.6

			間会計期間末 17年11月30日)	ı		間会計期間末 18年11月30日	,	要約 (平成	事業年度の J貸借対照表 18年5月31日)
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(資本の部)										
資本金			605,000	11.2						
資本剰余金										
資本準備金		163,380								
資本剰余金合計			163,380	3.0						
利益剰余金										
1 利益準備金		151,250								
2 任意積立金		570,000								
3 中間未処分利益		463,995								
利益剰余金合計			1,185,245	21.9						
その他有価証券 評価差額金			238,162	4.4						
自己株式			327,898	6.0						
資本合計			1,863,890	34.5]			
負債及び資本合計			5,409,959	100.0						

			間会計期間末 17年11月30日)		明会計期間末 18年11月30日)	ı	要約	事業年度の 3貸借対照表 18年 5 月31日))
区分	注記番号	金額(構成比 (%)	金額(構成比 (%)	金額(構成比 (%)
(純資産の部)										
株主資本										
1 資本金						605,000	10.8		605,000	11.3
2 資本剰余金										
資本準備金					163,380			163,380		
資本剰余金合計						163,380	2.9		163,380	3.1
3 利益剰余金										
(1) 利益準備金					151,250			151,250		
(2) その他利益剰余金					1,277,931			1,218,647		
配当準備金					40,000			40,000		
別途積立金					530,000			530,000		
繰越利益剰余金					707,931			648,647		
利益剰余金合計						1,429,181	25.4		1,369,897	25.6
4 自己株式						485,428	8.6		469,319	8.8
株主資本合計						1,712,133	30.5		1,668,959	31.2
評価・換算差額等										
その他有価証券 評価差額金						106,406	1.9		172,528	3.2
評価・換算差額等 合計						106,406	1.9		172,528	3.2
純資産合計						1,818,539	32.4		1,841,487	34.4
負債及び純資産合計						5,616,097	100.0		5,348,685	100.0

【中間損益計算書】

		(自 平月	中間会計期間 成17年 6 月 1 [成17年11月30]		(自 平)	中間会計期間 成18年 6 月 1 成18年11月30		要約(自 平)	事業年度の 引損益計算書 成17年 6 月 1 成18年 5 月31	日 目
区分	注記 番号	金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)
売上高			1,953,160	100.0		2,215,679	100.0		4,054,232	100.0
売上原価			1,180,030	60.4		1,318,423	59.5		2,436,647	60.1
売上総利益			773,130	39.6		897,255	40.5		1,617,585	39.9
販売費及び一般管理費			576,411	29.5		630,563	28.5		1,194,855	29.5
営業利益			196,719	10.1		266,691	12.0		422,729	10.4
営業外収益	(注1)		209,285	10.7		46,241	2.1		338,184	8.3
営業外費用	(注2)		6,690	0.4		10,421	0.4		14,382	0.3
経常利益			399,313	20.4		302,511	13.7		746,531	18.4
特別損失										
投資有価証券評価損		11,257	11,257	0.5	17,400	17,400	0.8	15,753	15,753	0.4
税引前中間(当期)純 利益			388,056	19.9		285,111	12.9		730,778	18.0
法人税、住民税 及び事業税		173,100			73,396			335,453		
法人税等調整額			173,100	8.9	53,730	127,126	5.8	65,005	270,448	6.6
中間(当期)純利益			214,956	11.0		157,985	7.1		460,330	11.4
前期繰越利益			251,687							
自己株式処分差損			2,648							
中間未処分利益			463,995							

【中間株主資本等変動計算書】

当中間会計期間(自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)

		株主資本								
		資本乗	余金	金		利益剰余金				
	資本金	資本	資本	利益	その	D他利益剰余	金	利益	自己株式	株主資本 合計
		準備金	剰余金 合計	準備金	配当 準備金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	剰余金 合計		ни
平成18年 5 月31日 残高(千円)	605,000	163,380	163,380	151,250	40,000	530,000	648,647	1,369,897	469,319	1,668,959
中間会計期間中の 変動額										
剰余金の配当 (注)							98,701	98,701		98,701
中間純利益							157,985	157,985		157,985
自己株式の取得									16,109	16,109
株主資本以外の 項目の中間会計 期間中の変動額 (純額)										
中間会計期間中の 変動額合計 (千円)							59,283	59,283	16,109	43,173
平成18年11月30日 残高(千円)	605,000	163,380	163,380	151,250	40,000	530,000	707,931	1,429,181	485,428	1,712,133

	評価・換	算差額等	仕次立人も
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	純資産合計
平成18年 5 月31日 残高(千円)	172,528	172,528	1,841,487
中間会計期間中の 変動額			
剰余金の配当 (注)			98,701
中間純利益			157,985
自己株式の取得			16,109
株主資本以外の 項目の中間会計 期間中の変動額 (純額)	66,122	66,122	66,122
中間会計期間中の 変動額合計 (千円)	66,122	66,122	22,948
平成18年11月30日 残高(千円)	106,406	106,406	1,818,539

⁽注) 平成18年8月の定時株主総会における利益処分項目であります。

前事業年度(自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)

		株主資本								
		資本剰	余金		;	利益剰余金				
	資本金	資本	資本	利益	利益その他利益	D他利益剰余	他利益剰余金		自己株式	株主資本 合計
		準備金	剰余金 合計	準備金	配当 準備金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	剰余金 合計		
平成17年 5 月31日 残高(千円)	605,000	163,380	163,380	151,250	40,000	530,000	358,436	1,079,686	277,899	1,570,167
事業年度中の 変動額										
剰余金の配当							142,470	142,470		142,470
役員賞与							25,000	25,000		25,000
当期純利益							460,330	460,330		460,330
自己株式の取得 ・処分(純額)							2,648	2,648	191,420	194,068
株主資本以外の 項目の中間会計 期間中の変動額 (純額)										
事業年度中の 変動額合計 (千円)							290,211	290,211	191,420	98,791
平成18年 5 月31日 残高(千円)	605,000	163,380	163,380	151,250	40,000	530,000	648,647	1,369,897	469,319	1,668,959

	評価・換	/+`'// * ^ +	
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	純資産合計
平成17年 5 月31日 残高(千円)	41,855	41,855	1,612,023
事業年度中の 変動額			
剰余金の配当			142,470
役員賞与			25,000
当期純利益			460,330
自己株式の取得 ・処分(純額)			194,068
株主資本以外の 項目の事業年度 中の変動額 (純額)	130,672	130,672	130,672
事業年度中の 変動額合計 (千円)	130,672	130,672	229,464
平成18年5月31日 残高(千円)	172,528	172,528	1,841,487

V 55 A + 1 H5 55	V/ 1 55 4 +1 H5 55	V == NV == ==
前中間会計期間 (自 平成17年6月1日	当中間会計期間 (自 平成18年6月1日	前事業年度 (自 平成17年 6 月 1 日
至 平成17年11月30日)	至 平成18年11月30日)	至 平成18年5月31日)
1 資産の評価基準及び評価方法	1 資産の評価基準及び評価方法	1 資産の評価基準及び評価方法
(1) たな卸資産	(1) たな卸資産	(1) たな卸資産
商品…移動平均法による低価	同左	同左
基準		
製品…総平均法による低価基		
準		
原材料、仕掛品移動平均法		
による原価		
基準		
貯蔵品…先入先出法による原		
価基準		
(2) 有価証券	(2) 有価証券	(2) 有価証券
子会社株式	子会社株式及び関連会社株	子会社株式
移動平均法による原価基準	式	同左
	同左	
その他有価証券	その他有価証券	その他有価証券
時価のあるもの	時価のあるもの	時価のあるもの
…中間決算日の市場価格	…中間決算日の市場価格	…決算日の市場価格等に
等に基づく時価法(評	等に基づく時価法(評	基づく時価法(評価差
価差額は全部資本直入	価差額は全部純資産	額は全部純資産直入法
法により処理し、売却	直入法により処理	により処理し、売却原
原価は移動平均法によ	し、売却原価は移動	価は移動平均法により
り算定しておりま	平均法により算定し	算定しております。)
す。)	ております。)	n+/# a 400 0 0
時価のないもの	時価のないもの	時価のないもの
…移動平均法による原価	同左	同左
基準	2. 田中海女のは圧燃却の大は	2. 田中海女のは圧慢也の大は
2 固定資産の減価償却の方法	2 固定資産の減価償却の方法	2 固定資産の減価償却の方法
(1) 有形固定資産	(1) 有形固定資産	(1) 有形固定資産
定率法によっております。	同左	同左
ただし、平成10年4月1日以		
降取得した建物(建物附属設		
備を除く)については定額法 によっております。		
によっております。		
なお、主な耐用年数は以下の とおりであります。		
このりであります。 建物 7年~31年		
(2) 無形固定資産	 (2) 無形固定資産	(2) 無形固定資産
(2) 無が回た資産 定額法によっております。	同左	同左
なおソフトウェアについては	127	127
社内における利用可能期間		
(5年)に基づく定額法によっ		
ております。		

前中間会計期間 (自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)	当中間会計期間 (自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)	前事業年度 (自 平成17年 6 月 1 日 至 平成18年 5 月31日)
3 引当金の計上基準 (1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備 えるため、一般債権について は、貸倒実績率により、貸倒 懸念債権等の特定の債権につ いては個別に回収可能性を検 討し、回収不能見込額を計上 しております。	3 引当金の計上基準 (1) 貸倒引当金 同左	3 引当金の計上基準 (1) 貸倒引当金 同左
(2) 賞与引当金 従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当中間会計期間の負担に属する額を計上しております。 (3) 役員賞与引当金	(2) 賞与引当金 同左 (3) 役員賞与引当金	(2) 賞与引当金 従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当事業 年度の負担に属する額を計上 しております。 (3) 役員賞与引当金
	定時株主総会での承認を条件 に支給される役員賞与に備え るため、支給見込額に基づき 計上しております。 (追加情報) 当中間会計期間は、役員賞与 の支給が確実と見込まれる状 況にあるため、役員賞与引当	定時株主総会での承認を条件 に支給される役員賞与に備え るため、支給見込額に基づき 計上しております。
(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務及び年金資産に基づき計上しております。	金を計上しております。 (4) 退職給付引当金 同左	(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき計上しております。
(5) 役員退職給与引当金 役員退職慰労金の支出に備え るため、内規に基づく当中間 会計期間末要支給額を計上し ております。	(5) 役員退職給与引当金 同左	(5) 役員退職給与引当金 役員退職慰労金の支出に備え るため、内規に基づく当事業 年度末要支給額を計上してお ります。
4 リース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移 転すると認められるもの以外の ファイナンス・リース取引につ いては、通常の賃貸借取引に係 る方法に準じた会計処理によっ ております。	4 リース取引の処理方法 同左	4 リース取引の処理方法 同左
5 ヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 為替予約については振当処理 の要件を満たしている場合は 振当処理を採用しておりま す。	5 ヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 同左	5 ヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 同左
9。 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 <u>ヘッジ手段</u> 為替予約 <u>ヘッジ対象</u> 外貨建買掛債務	(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左	(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左
(3) ヘッジ方針 外貨建債務にかかる将来の為 替変動リスクをヘッジする目 的で為替予約取引を行ってお ります。	(3) ヘッジ方針 同左	(3) ヘッジ方針 同左

前中間会計期間 (自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)	当中間会計期間 (自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)	前事業年度 (自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)
(4) ヘッジ有効性の評価の方法 為替予約については履行が確 実な輸入取引に係るものであ り、確実に実行されるため、 有効性の判定を省略しており ます。	(4) ヘッジ有効性の評価の方法 同左	(4) ヘッジ有効性の評価の方法 同左
6 その他中間財務諸表作成のため の重要な事項 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。 なお仮払消費税等及び仮受消 費税等は相殺せず、それぞ れ、流動資産のその他、流動 負債のその他に含めて表示し ております。	6 その他中間財務諸表作成のため の重要な事項 消費税等の会計処理 同左	6 その他財務諸表作成のための重要な事項 要な事項 消費税等の会計処理 税抜方式を採用しております。

会計処理の変更

当中間会計期間から「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成 14年 8 月 9 日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針」(企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。 「おいていなります。これによる損益に与える影響はありません。 「役員賞与に関する会計基準)当事業年度から「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。 「役員賞与に関する会計基準)当事業年度から「役員賞与に関する会計基準)(企業会計基準)(企業会計基準(分析適用されることとなったため、同会計基準)(の会計基準)の当事業年度から「役員賞与に関する会計基準)の会計基準)の会計基準を適用しております。 「の会計基準を適用しております。」 「の会計基準の記述をいます。」 「の表述をいます。」 「の表述をいまする。」 「の表述をいます。」 「の表述をいまする。」 「の表述をいまする。			1
(固定資産の減損に係る会計基準) 当中間会計期間から「固定資産の 減損に係る会計基準」(「固定資産 の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成 14年8月9日))及び「固定資産の 減損に係る会計基準の適用指針」 (企業会計基準の適用指針」 (企業会計基準委員会 企業会計基 準適用担ずます。 これによる損益に与える影響はありません。 (役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) の流程を計算を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 (役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) が適用されることとなったため、同会計基準 4号)が適用されることとなったが め、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当該 純利益がそれぞれ27,000千円減少	(自 平成17年6月1日	(自 平成18年6月1日	(自 平成17年6月1日
当中間会計期間から「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準の適用指針」(企業会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。 「の表別を関する影響はありません。 「の表別を関する。 これによる損益に与える影響はありません。 「の会別を関する会計基準) 当事業年度から「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。 「の会計基準」(企業会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) の会計基準(企業会計基準を考しております。 「の会計基準を適用しております。」 「の会計基準の記述を対しております。」 「の表述を対しております。」 「の会述を対しております。」 「の会述を対しているでは、できます。」 「の会述を対しているでは、できます。」 「の会述を対しているでは、できます。」 「の会述を対しているでは、できます。」 「の会述を対しているでは、できます。」 「の会述を対しているでは、できます。」 「の会述を対しているでは、できます。」 「の会述を対しているでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「の会述をいるでは、できます。」 「のきまするでは、できます。」 「のきまするでは、でき	至 平成17年11月30日)	至 平成18年11月30日)	至 平成18年 5 月31日)
減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成 14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準の適用指針」(企業会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「会議会計基準の適用指針を適用しておりません。 「会議会計基準の適用指針を適用しておりません。 「会議会計基準の適用指針を適用しておりません。 「会議会計基準の適用指針を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「会員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準を通れております。 この結果、従来の方法と比較し、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当其に対し、公司を対しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当其に対し、対益がそれぞれ27,000千円減少人	(固定資産の減損に係る会計基準)		(固定資産の減損に係る会計基準)
の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成 14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「後負賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準 4号)が適用されることとなったが、同会計基準を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。	当中間会計期間から「固定資産の		当事業年度から「固定資産の減損
る意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準(全業会計基準の場所である。 これによる損益に与える影響はありません。 「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) の会計基準を適用しております。 これによる損益に与える影響はなりません。 「役員賞与に関する会計基準) 「会会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当該統利益がそれぞれぞれのの千円減少し	減損に係る会計基準」(「固定資産		に係る会計基準」(「固定資産の減
14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「会計基準の適用指針を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) のにまる計画である。 これによる損益に与える影響はなりません。 「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) に係る会計基準適用指針第6号)が適用されることとなったが、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当該統利益がそれぞれ27,000千円減少人	の減損に係る会計基準の設定に関す		損に係る会計基準の設定に関する意
減損に係る会計基準の適用指針」 (企業会計基準委員会 企業会計基 準適用指針第6号 平成15年10月31 日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準 4号)が適用されることとなったが め、同会計基準を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準 4号)が適用されることとなったが め、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、 営業利益、経常利益及び税引前当 統利益がそれぞれ27,000千円減少	る意見書」(企業会計審議会 平成		見書」(企業会計審議会 平成14年
(企業会計基準委員会 企業会計基 準適用指針第6号 平成15年10月31 日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「はなる。 これによる損益に与える影響はありません。 「はなる。」はなる。 これによる損益に与える影響はありません。 「なる。」はなる。 これによる損益に与える影響はありません。 「なる。」はなる。 これによる損益に与える影響はありまする。 これによる情報はなる。 これによるはなる。 これによるなる。 これによるなるなるなる。 これによるなるなる。 これによるなるなるなる。 これによるなるなるなる。 これによるなる。 これによるなるなるなるなるなるなるなるなるなる。 これによるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるな	14年8月9日))及び「固定資産の		8月9日))及び「固定資産の減損
準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「会員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準」の会計基準を適用しておりません。 「会員賞与に関する会計基準を通用しております。 「の会計基準」の企業会計基準委員会で成17年11月29日企業会計基準委員会で成17年11月29日企業会計基準を適用しております。 「の結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当該統利益がそれぞれ27,000千円減少し、	減損に係る会計基準の適用指針」		に係る会計基準の適用指針」(企業
田)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 「は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	(企業会計基準委員会 企業会計基		会計基準委員会 平成15年10月31日
基準及び同適用指針を適用しておりません。 「役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準委員会で成17年11月29日 企業会計基準を対しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当該に対している。	準適用指針第6号 平成15年10月31		企業会計基準適用指針第6号)が適
りません。 ます。 これによる損益に与える影響はでりません。 (役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準委員会で成17年11月29日 企業会計基準委員会で成17年11月29日 企業会計基準等 4号)が適用されることとなったがめ、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当り統利益がそれぞれ27,000千円減少し	日)を適用しております。		用されることとなったため、同会計
これによる損益に与える影響はでりません。 (役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準委員会で成17年11月29日 企業会計基準委員会で成17年11月29日 企業会計基準をあることとなったがあい。同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当該統利益がそれぞれ27,000千円減少し	これによる損益に与える影響はあ		基準及び同適用指針を適用しており
りません。 (役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準委員会会計基準」(企業会計基準委員会で成17年11月29日 企業会計基準等 4号)が適用されることとなったがあ、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当該 統利益がそれぞれ27,000千円減少し	りません。		ます。
(役員賞与に関する会計基準) 当事業年度から「役員賞与に関する会計基準委員会 る会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年11月29日 企業会計基準等 4号)が適用されることとなったが め、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、 営業利益、経常利益及び税引前当該 純利益がそれぞれ27,000千円減少し			これによる損益に与える影響はあ
当事業年度から「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年11月29日 企業会計基準等 4号)が適用されることとなったが め、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、営業利益、経常利益及び税引前当該 純利益がそれぞれ27,000千円減少し			りません。
る会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年11月29日 企業会計基準等 4号)が適用されることとなったが め、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、 営業利益、経常利益及び税引前当身 純利益がそれぞれ27,000千円減少し			(役員賞与に関する会計基準)
平成17年11月29日 企業会計基準第4号)が適用されることとなったが め、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、 営業利益、経常利益及び税引前当期 純利益がそれぞれ27,000千円減少し			当事業年度から「役員賞与に関す
4号)が適用されることとなったが め、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、 営業利益、経常利益及び税引前当身 純利益がそれぞれ27,000千円減少し			る会計基準」(企業会計基準委員会
め、同会計基準を適用しております。 この結果、従来の方法と比較し、 営業利益、経常利益及び税引前当身 純利益がそれぞれ27,000千円減少し			平成17年11月29日 企業会計基準第
す。 この結果、従来の方法と比較し、 営業利益、経常利益及び税引前当身 純利益がそれぞれ27,000千円減少し			4号)が適用されることとなったた
この結果、従来の方法と比較し、 営業利益、経常利益及び税引前当期 純利益がそれぞれ27,000千円減少し			め、同会計基準を適用しておりま
営業利益、経常利益及び税引前当期 純利益がそれぞれ27,000千円減少			す。
			この結果、従来の方法と比較し、
			営業利益、経常利益及び税引前当期
			純利益がそれぞれ27,000千円減少し
ております。			ております。

前中間会計期間 (自 平成17年 6 月 1 日 至 平成17年11月30日)	当中間会計期間 (自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)	前事業年度 (自 平成17年 6 月 1 日 至 平成18年 5 月31日)
		(貸借対照表の純資産の部の表示に
		関する会計基準)
		当事業年度から「貸借対照表の純
		資産の部の表示に関する会計基準」
		(企業会計基準委員会 平成17年12
		月9日 企業会計基準第5号)及び
		「貸借対照表の純資産の部の表示に
		関する会計基準の適用指針」(企業
		会計基準委員会 平成17年12月9日
		企業会計基準適用指針第8号)が適
		用されることとなったため、同会計
		基準及び同適用指針を適用しており
		ます。
		これによる損益に与える影響はあ
		りません。
		なお、従来の「資本の部」の合計
		│ に相当する金額は、1,841,487千円 │
		であります。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

前中間会計期間末 (平成17年11月30日)			当中間会計期間末 (平成18年11月30日)			前事業年度 (平成18年 5 月31日)			
(注1)	有形固定資産の減価償却累計額			有形固定資産の減価償却累計額			有形固定資産の減価償却累計額		
	2,499,901千円				2,491,663千円			2,507,165千円	
(注2)	担保資産		(注2)	担保資産		(注2)	担保資産		
	(1) 担保提供資産			(1) 担保提供資産			(1) 担保提供資産		
	建物	121,713千円		建物	113,081千円		建物	117,174千円	
	土地 248,689			土地	248,689		土地	248,689	
	投資有価証券 665,842			投資有価証券	451,465		投資有価証券	675,213	
	計 1	,036,244		計	813,236		計	1,041,076	
	(2) 担保提供資産に対応する債			(2) 担保提供資産に対応する債			(2) 担保提供資産に対応する債		
	務			務			務		
	長期借入金	362,372千円		長期借入金	580,300千円		長期借入金	406,632千円	
	(一年以内に			(一年以内に			(一年以内に		
	返済予定分 を含む)			返済予定分 を含む)			返済予定分 を含む)		
	~ EBO)			(EBO)			_ 200)		

(中間損益計算書関係)

前中間会計期間 (自 平成17年6月1日 至 平成17年11月30日)				当中間会計期間 (自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)			前事業年度 (自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)			
(注1)	(注1) 営業外収益の主要項目			営業外収益の主要項目			営業外収益の主要項目			
	受取配当金	9,246千円		受取配当金	11,481千円		受取配当金	17,530千円		
	受取利息	746		受取利息	1,235		受取利息	1,588		
	有価証券売却益	195,956		有価証券売却益	31,001		有価証券売却益	312,166		
(注2)	注2) 営業外費用の主要項目			営業外費用の主要項目			営業外費用の主要項目			
	支払利息	6,225千円		支払利息	7,087千円		支払利息	11,448千円		
3	減価償却実施額		3	減価償却実施額		3	減価償却実施額			
	有形固定資産	29,417千円		有形固定資産	35,900千円		有形固定資産	65,365千円		
	無形固定資産	1,794		無形固定資産	2,215		無形固定資産	3,969		
	計	31,212		計	38,115		計	69,334		

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 平成18年6月1日 至 平成18年11月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計 期間末株式数	摘要
自己株式					
普通株式	1,842,830株	32,130株	株	1,874,960株	(注)
合計	1,842,830株	32,130株		1,874,960株	

(注)変動事由の概要

増加数の内訳

会社法第165条第2項の規定に基づく取得

31,000株

単元未満株式の買取

1,130株

前事業年度(自 平成17年6月1日 至 平成18年5月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当事業年度末 株式数	摘要
自己株式					
普通株式	1,494,342株	401,488株	53,000株	1,842,830株	(注)
合計	1,494,342株	401,488株	53,000株	1,842,830株	

(注)変動事由の概要

1 増加数の内訳

旧商法第211条 J 3 第 1 項第 2 号の規定に基づく取得 401,000株 単元未満株式の買取 488株

2 減少数の内訳

ストックオプションの行使による売却 53,000株



前中間会計期間 (自 平成17年6月1日				当中間会計期間 (自 平成18年6月1日				前事業年度 (自 平成17年6月1日				
至 平成17年11月30日)				至 平成10年0月1日				- (日 - 一成17年 0 月 1 日 至 平成18年 5 月31日)				
1 リース物件の所有権が借主に移				1 リース物件の所有権が借主に移				1 リース物件の所有権が借主に移				
転すると認められるもの以外のフ						られるもの		転すると認められるもの以外のフ				
ァイナンス・リース取引						リース取引		ァイナンス・リース取引				
リース物件の取得価額相当				リース物件の取得価額相当					ノース物	件の取得	価額相当	
額、減価償却累計額相当額及び				額、減価償却累計額相当額及び				額、減価償却累計額相当額及び				
中間期末残高相当額			中間期末残高相当額				期末残高相当額					
取得価額			取得価額 累計額 残高					期末残高				
相当額 系計級 残局 相当額 相当額			相当額 (千円)	相当額	相当額		相当額 (千円)	累計額 相当額	相当額 (千円)			
1461-5-7		(千円)	(千円)	1441 T - 12		(千円)	(千円)	1441-17 - 18		(千円)	(111)	
機械及び 装置	97,500	67,321	30,178	機械及び 装置	97,500	81,249	16,250	機械及び 装置	97,500	74,285	23,214	
その他	62,221	35,378	26,843	その他	42,767	24,665	18,101	その他	57,492	35,755	21,736	
合計	159,721	102,699	57,021	合計	140,267	105,915	34,351	合計	154,992	110,041	44,950	
]	未経過リ-	- ス料中間	期末残高	Ħ	₹経過リ-	- ス料中間	期末残高	トリップ 未経過リース料期末残高相当				
相	当額			相当	á額			額				
	年内	23	3,437千円	1年内 22,434千円			1 年内 22,162千円			2,162千円		
	年超		5,160	1年超 13,725				1年超 25,011				
	計		,597	合計 36,160				合計 47,173				
		ス料、減価		支払リース料、減価償却費相 当額及び支払利息相当額				支払リース料、減価償却費相 当額及び支払利息相当額				
当額及び支払利息相当額			ラ額及び支払利忌相当額 支払リース料 11,484千円					ほびい立た ムリース米				
支払リース料 13,536千円 減価償却費相当額 12,544					ムリースャ 西償却費札		,404 T D		ムリース↑ 西償却費札		6,574千円 1,615	
	达利息相当 达利息相当		765		4利息相3		470		4利息相当		1,380	
		ュ版 貴相当額の				ュ <u>い</u> 貴相当額の	-			a 版 費相当額の		
		引を耐用年				司左				司左		
残	存価額を零	厚とする定	額法によ									
	ております											
		質の算定方		1		額の算定方	法	7		領の算定方	i法	
		総額とリー			ľ	司左			ji	司左		
		の差額を利 への配分方										
		、い配カカ 法によっ										
す。		14 IC & J	C 00 - 17 - 12									
		ィング・リ	ース取引	 2 オペレーティング・リース取引			ース取引	2 オペレーティング・リース取			ース取引	
未	未経過リース料		未経過リース料			未経過リース料						
	年内		2,923千円	·円 1 年内		为 1,613千円		1 年内			2,595千円	
	年超		2,892	1年超		1,278			手超		1,757	
 	計	5	5,815	合計		2,892		合 	計	4	4,353	
				(減損損失について)				- (減損損失について)				
					リース資産に配分された減損損失は			同左				
					ありませんので、項目等の記載は省							
				略しては	ゔります。							

(有価証券関係)

前中間会計期間末、当中間会計期間末及び前事業年度末のいずれにおいても子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(1株当たり情報)

中間連結財務諸表を作成しているため記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

平成19年1月12日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議しております。

中間配当による配当金総額......59,028千円

1株当たりの金額......6円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日......平成19年2月14日

(注) 平成18年11月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主に対し、支払いを行います。

第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(2) 有価証券報告書 事業年度 自 平成17年6月1日 平成18年8月30日 及びその添付書類 (第71期) 至 平成18年5月31日 近畿財務局長に提出。

近畿財務局長に提出。

(3) 有価証券報告書の 事業年度 訂正報告書 事業年度 自 平成17年6月1日 平成18年9月25日 デースのでは、第71期) 至 平成18年5月31日 近畿財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

平成18年2月17日

前田金属工業株式会社 取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員

公認会計士 土 田 秋 雄

指定社員 業務執行社員

公認会計士 多 田 滋 和

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている前田金属工業株式会社の平成17年6月1日から平成18年5月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間(平成17年6月1日から平成17年11月30日まで)に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結剰余金計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書について中間監査を行った。この中間連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間連結財務諸表には全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間連結財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、前田金属工業株式会社及び連結子会社の平成17年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間(平成17年6月1日から平成17年11月30日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

平成19年2月16日

前田金属工業株式会社 取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員

公認会計士 土 田 秋 雄

指定社員 業務執行社員

公認会計士 多 田 滋 和

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている前田金属工業株式会社の平成18年6月1日から平成19年5月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書について中間監査を行った。この中間連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間連結財務諸表には全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間連結財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、前田金属工業株式会社及び連結子会社の平成18年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

平成18年2月17日

前田金属工業株式会社 取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員

公認会計士 土 田 秋 雄

指定社員 業務執行社員

公認会計士 多 田 滋 和

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている前田金属工業株式会社の平成17年6月1日から平成18年5月31日までの第71期事業年度の中間会計期間(平成17年6月1日から平成17年11月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表及び中間損益計算書について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、前田金属工業株式会社の平成17年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間(平成17年6月1日から平成17年11月30日まで)の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

平成19年2月16日

前田金属工業株式会社 取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員

公認会計士 土 田 秋 雄

指定社員 業務執行社員

公認会計士 多 田 滋 和

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている前田金属工業株式会社の平成18年6月1日から平成19年5月31日までの第72期事業年度の中間会計期間(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、前田金属工業株式会社の平成18年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間(平成18年6月1日から平成18年11月30日まで)の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上